

今日の学習

漢文を訓点に従って漢字とひらがなを用いて書き改めたものを、書き下し文という。

□書き下し文

① 送りがなのかたかなはひらがなに直す。歴史的かなづかいに従う。

〔注意〕 キ→あ エ→ゑ ヲ→を

② 返り点や熟語棒は、書き下し文には書かない。

③ 文語文法の助詞・助動詞にあたる語はひらがなに直す (第3日参照)。

○助詞にあたる語

「は」者

「の」之

「と」与及

「より」自從由与

「や・か」乎邪耶也 与哉な

「かな」哉夫

「のみ」耳 而已 而已矣 など

○助動詞にあたる語

「る・らる」見 被為

1 次の漢文を書き下し文に改めなさい。

※後者は則ち人の制する所と爲る。

(1) 聞レ一以知レ十。

「一を聞きて以て十を知る。」

(2) 懸ニ羊頭ニ売レ狗肉。

「羊頭を懸けて狗肉を売る。」

(3) 先 即制レ人、後 則為レ人所制。

「先ずれば即ち人を制し、後れば則ち人所に制される。」

(4) 昭王為レ隗 改ニ築宮ニ師ニ事之。

「昭王隗の爲に宮を改築し之に師事す。」

(5) 勿下以ニ惡小一為之。

「惡の小なるを以て之を爲すこと勿れ。」

2 次の漢文を、太字の文字に注意して書き下し文に改めなさい。

(1) 楚人有下鬻二盾与一矛者。

「楚人に盾と矛とを鬻ぐ者有り。」

(2) 守レ関者、備ニ他盗出入与ニ非常一也。

「関を守らしめしは、他盗の出入と非常とに備へしなり。」

(3) 書足三以記ニ名姓ニ而已。

「書は以て名姓を記すに足るのみ。」

(4) 得レ非ニ君殺レ之耶。

「君之を殺すに非ざるを得んや。」

(5) 有レ朋、自ニ遠方一来、不ニ亦楽一乎。

「朋有り、遠方より来たる、亦た樂しからずや。」

(6) 司馬仍為ニ送レ老官一。

「司馬は仍ほ老いを送るの官たり。」

(7) 旁 若ニ無レ人者一。

「旁に人無き者のごとし。」

(8) 糞土之牆不レ可レ朽也。

「糞土の牆は朽るべからざるなり。」

(9) 不レ足下為ニ外人一道也。

「外人の爲に道ふに足らざるなり。」

(10) 欲レ使三 大信 行ニ天下ニ。

「大信をして天下に行はれしめんことを欲す。」

3 次の漢文を書き下し文に改めなさい。

「しむ」使 令 教 遣 俾
「ごとし」如 若
「べし」可
「たり」為